



収穫祭/どぶろく祭

10月18日、マウントあかねで「収穫祭/どぶろく祭」が開催され、秋晴れの下、朝から物産テントがにぎわいました。テノール歌手・坂爪いちおさんの童謡コンサートや、屋外ステージでは指笛など盛りだくさんのプログラムに参加者は大満足でした。

科学的にも貴重な自然資源を生かす ジオパーク構想 茨城大学が呼びかけ

10月14日、地質学的にも貴重で、美しい自然遺産を地域振興につなげるために、世界ジオパーク認定をめざそうとする会議が北茨城市内で開かれました。茨城大学が那珂川以北の県北9市町村に呼びかけたものです。世界ジオパークとは、ユネスコが支援する「世界ジオパーク・ネットワーク」により認定された自然遺産公園のことです。現在までに、世界で19カ国の63地域

が認定されています。日本国内では今年8月、「北海道洞爺湖有珠山」「新潟県糸魚川」「長崎県島原雲仙」の3ヶ所が選ばれました。また、この3ヶ所にくわえて、「山陰海岸」「室戸海岸」「アポイ岳地域」「南アルプス」の合わせて7ヶ所が日本ジオパークとして認定されています。茨城県における「ジオパーク構想」は茨城大学の理学部が中心になってまとめられています。次のように提唱しています。

「茨城県北部地域（那珂川以北）は、阿武隈山地、久慈山地などの美しい山並み、那珂川、久慈川といった河川、五浦海岸に代表される海岸線の豊かな自然を有しており地質学的にも貴重なものであり、歴史・文化遺産も豊富に存在している。これらの地質や文化遺産を守りかつジオ・ツーリズムを展開することによって、観光や地域振興、特産品の開発などに結びつけることができる。その際は、茨城

大学のもつ知的財産や人的資源を活用して社会に貢献したい」茨城大では、県北地域を世界ジオパークに認定させるためには、各市町村の理解と協力が欠かせないとし、近く「県北ジオパーク推進協議会」を立ち上げる予定です。今後の活動としては、地質の正確な再調査や講演会の開催、地元ガイドの養成等しながら世論を盛り上げ、2012年の

8月に世界ジオパークの認定をめざす考えです。同構想推進の中心になっている天野一男理学部教授は「世界ジオパークに認定されたら、世界各地から観光客が訪れ、県北地域の活性化につながる」としています。日本共産党市議団は「構想の趣旨には賛成であり、このことを通じて、地元の地質や歴史・文化遺産を再認識する契機になってほしい」と話しています。

中津川市の国保坂下病院では、公立として救急対応は当然ながら、生活習慣病に代表される慢性期疾患の治療にも力を入れ、疾病予防と健康増進の体制を整えることを基本に据えています。姿勢が貫かれていました。病院のパンフには、「診てやる、治してやるのではなく、病に立ち向かう皆様を支え共に歩む同伴者がモットー」と書かれています。

市議学生会 文教厚生委 行政視察

富山市の小中学校統廃合、岐阜県中津川市と恵那市の医療・予防

10月19、21日、市議会の文教厚生委員会は、富山県と岐阜県を訪ね、学校統廃合の事例と病院・介護予防施設を視察しました。鈴木やす子議員が速報します。



恵那市の「回想法センター」

富山県富山市では、市街地のドーナツ化現象による児童数減少のもとで、公立小学校が統廃合され、中学

校と一体化した校舎が建設されました。魅力ある施設で市街地への定住も促すめたいと、民間の資金やノウハウを活用するPFIが導入されました。狭い敷地ながら、建物内はゆったりと明るく、斬新なアイデアも多くみうけられました。

同じく恵那市の明智回想法センターは、旧産院を改修した木造の施設で、明治、大正、昭和の物品を収蔵・展示しています。「回想法」とは、これらの懐かしい生活用具や建物を題材にしたコミュニケーションをとることで、高齢者の脳の活性化をはかり、介護予防や認知症防止をめざす取り組みで、全国的にも珍しいものです。

岐阜県中津川市と恵那市では、国保病院と健康増進センターを視察しました。旧町村の施設として利用され